コミュニティ班
成果発表

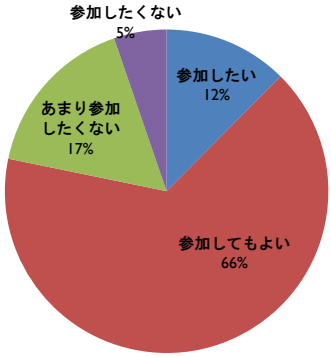
メンバー
徳永・水町・水本・尾崎・林田・岡村・若杉・渡邊・慶田

目次

- 学生の地域連携アンケートについて
- 長嶺公民館での勉強会について
- 今後の学生の地域連携について、方針と具体的方策

学生の地域連携アンケート

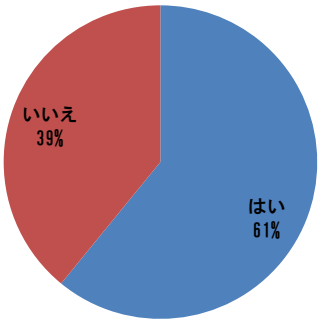
地域での活動(清掃活動・廃品回収など)に参加者として参加したいと思いますか？



約８割の学生が、地域の活動に参加を希望している。

学生の地域連携アンケート

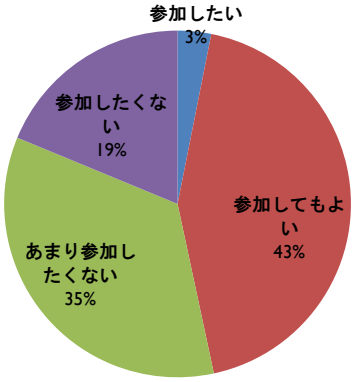
あなたは地域の活動(お祭りを除く)に参加者として参加したことがありますか？



実際に参加したことのある学生の割合は全体の６割程度である。

学生の地域連携アンケート

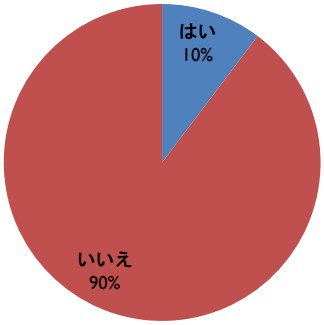
地域での活動（清掃活動・廃品回収など）に企画者として参加したいと思いますか？



５割もの学生が、企画者としても地域の活動に携わりたいと考えている。

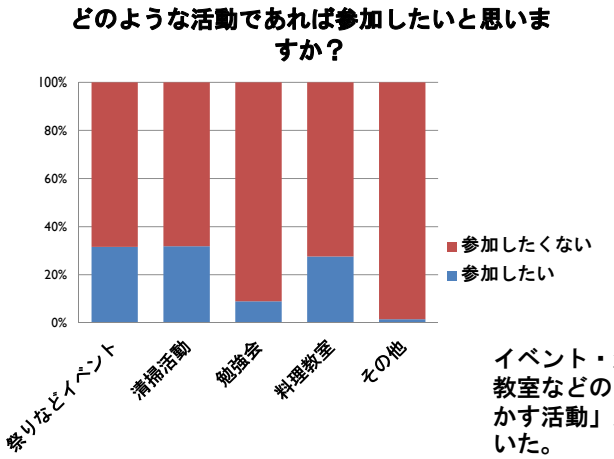
学生の地域連携アンケート

あなたは地域の活動（お祭りを含む）に企画者として参加したことがありますか？



実際に企画者として参加したことのある学生は全体の１割である。

学生の地域連携アンケート



イベント・清掃活動・料理教室などの「実際に体を動かす活動」が支持を集めていた。

アンケート結果より

- 企画者・参加者を問わず、「地域の活動へ参加を希望している学生の割合」と「実際に参加したことのある学生の割合」には乖離が見られた。
- 特に企画者として参加したいと回答した学生は全体の約５割であったのに対して、実際に企画者として地域の活動に参加したことのある学生は全体の１割に留まっていた。

アンケート結果より　②

- 以上のアンケートより、熊本県立大学の学生は「地域の活動へ参加する意欲はあるものの、実際に参加はできていない」者が多いことから、

  - 「どのような手段で地域の活動に参加すれば良いか分からない」
  - 「地域の活動に参加するきっかけを掴めていない」

  といった学生が多いと推測される。

勉強会の様子

- 実施日時　12月26日(水)
- 場所　長嶺公民館

勉強会の様子

勉強会の様子

勉強会の様子

今回の地域活動について

- 評価点

・事前準備を入念に行ったこともあり、当日には目立ったトラブルが発生しなかった。

・予想以上に多くの小学生が参加していた。

・勉強会の最中、こまめに休憩の時間を挟むなど、子供たちへ配慮することができた。

・今回の活動全体を通じて、勉強を教える小学生だけでなく、その父兄や自治会の方々とも交流や意見交換を行うことができた。

今回の地域活動について

- 改善点

・参加する子供たちが、「何を勉強したいのか？」というニーズをほとんど把握していなかった。

・そして、「作文や習字も教えることができる」というアピールも不足していた。

・集中力を持続できない子供も多く、そのような子供たちへの対策を考えるべきであった。

今回の地域活動について　総括

今回は地域の子供たちに勉強を教える、という活動を通して、学生と地域の連携を模索した。

非常に労力を要した活動ではあったが、子供たちの無垢な笑顔や地域の方々との交流など、その収穫は極めて大きなものであった。

そして今回、老人会の方との交流により判明したことは

「地域の側も、学生の力を必要としている」

ということである。学生の地域連携の必要性を実感せざるを得ない現実といえよう。

学生の地域連携を推進するために

先のアンケート結果から分かるように、県立大学の学生は「地域活動に参加する意欲はあるが、そのきっかけを掴めていない」者が多い。

一方で、地域の側も学生の若い力を欲していると、今回の活動で判明した

⇒大学生の自発的な地域参加を促し、学生と地域の架け橋を作るためには、大学生に「実際に地域の活動に参加するきっかけ」を与えるべきではないだろうか？

学生の地域連携を推進するために

考えられる方策案

- 学生で地域連携のプロジェクト・チームを作成し、その参加を講義の前後で呼びかける
- 「なごみの里活動」のような地域連携の制度を大学側に作ってもらえるよう働きかける

アンケート結果より、「実際に体を動かす活動」が学生の支持を集めていたことから、そのような活動への参加を促すことが有効といえる

まとめ

・今回の活動では企画・運営ともに地域コミュニティの方々との連携が実現できた。そして、同時に「学生の力が地域にも必要とされている」と実感できた。
一方、改善すべき点も発見した。

・そして今回の活動のみで地域参加を終わらせず、今回の活動で得られた経験やノウハウ、発見した課題を後輩たちに伝達し、息の長い地域連携活動を続けていくべきである。